

◎下水道一般の経費

下水道使用料等賦課徴収事業

【 道水路管理課・下水道課 】

【総合計画上の位置づけ】

安全で快適な生活が送れるまち

下水道・河川:公共下水道の整備や良好な水辺環境の実現が図られているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 公共下水道の使用料、占用料を適正に徴収するため。

効果 徴収率の向上を図る。

【事業の内容】

(1) 下水道使用料等賦課徴収事業

- ・ 下水道使用料の賦課を行い、徴収を委託した。下水道事業受益者負担金の賦課及び徴収を行った。

(2) 下水道占用料賦課徴収事業

- ・ 下水道占用料の賦課及び徴収を行った。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
113,973	114,633	110,288		4,345

主な支出内訳

・ 下水道使用料等賦課徴収事業

臨時的任用職員賃金

0

受益者負担金一括納付報奨金

1,048

下水道使用料納付書等印刷製本費

489

下水道使用料徴収事務委託料

104,623

他市への汚水処理等負担金

3,822

・ 下水道占用料賦課徴収事業

臨時的任用職員賃金

85

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	<input checked="" type="checkbox"/> サービス部門 <input type="checkbox"/> 支援部門		都整-30 下水道使用料等賦課徴収事業				
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	1250	下水道占用料賦課徴収事業				
主管課 分野名	道水路管理課		関連課	下水道課			
目標 (目標値)	安全で快適な生活が送れるまち						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	88千円	0千円	57千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	88千円	0千円	57千円			
	人員配置数	0.5人	0.5人	0.5人			
	人 件 費	4,510千円	4,592千円	4,702千円			
協働の パートナー							
事務事業 運営経費	総事業費	4,598千円	4,592千円	4,759千円			
	市民1人当 りの経費	26円	26円	27円			
	対象者1人 当りの経費						
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 下水道占用料の未納件数が増加傾向にある。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 文書及び電話による未納者への督促を行った。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 徴収にあたり、本人の移動及び死亡等により占用者の所在が不明になる。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 占用者の名義変更に伴う必要書類提出の周知徹底及び料金の口座振替による徴収システムの導入を行う。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	B	改善の必要性 有
	現状のまま継続し、必要な改善を図る。				
担当課長氏名:		道水路管理課長 稲葉 一男			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	B	改善の必要性 有
	現状のまま継続する。				
担当部名	都市整備部	部長名	高橋 洋		

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 都整-36 下水道使用料等賦課徴収事業 □支援部門								
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	532 賦課徴収事業							
主管課	下水道課	関連課							
分野名	下水道・河川								
目標 (目標値)	徴収率の向上 100%								
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考				
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日				
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯					
運営資源 状 況	決算値	110,200千円	106,682千円	108,318千円					
	(国・県)								
	(負担金等)								
	(一般財源)	110,200千円	106,682千円	108,318千円					
	人員配置数	2.5人	3.0人	3.0人					
	人件費	22,373千円	27,115千円	27,219千円					
事務事業 運営経費	協働の パートナー								
	総事業費	132,573千円	133,797千円	135,537千円	対象者数(年度当初水 洗化人口)				
	市民1人当 りの経費	751円	761円	774円	H20 153,716人 H19 149,718人 H18 146,981人				
対象者1人 当りの経費	862円	894円	922円						
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価									
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※				
						※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
下水道使用料徴収率	○	目標値	100%	100%	100%	100%			
		実績値	96.71%	97.52%					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
受益者負担金徴収率	×	目標値	100%	100%	100%	100%			
		実績値	82.67%	79.91%					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している									
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)									
団体名	鎌倉市	横浜市	川崎市	横須賀市	平塚市	藤沢市	小田原市	茅ヶ崎市	逗子市
H19使用料徴収率	96.71	99.86	99.26	97.73	96.81	84.56	97.21	94.69	96.61
H19負担金徴収率	40.12				87.72	99.55	84.36	75.91	100.00
相模原市	秦野市	厚木市	大和市	伊勢原市	海老名市	座間市	綾瀬市	南足柄市	三浦市
96.42	92.30	95.36	91.21	96.08	96.89	93.32	94.19	99.3	
87.7	90.5	94.3	97.9	91.0	96.0		100.0	98.1	

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	<p>(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下水道システムの稼働時間が開庁時間内のため、入力・検証等事務の時間が限られている。 ・違反工事等により、使用料の賦課漏れが発生する。 ・上下水道料金一括納付制度が実施(平成15年度)されてから、使用料の徴収率は良好に推移しているが、平成14年度以前の滞納が相当額存在する。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	<p>(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な集計作業を分割して上下水道システム稼働時間内に処理し、その後集約しデータ化を図り対応している。 ・使用料の賦課漏れについては上下水道システム及び水道営業所からの水栓開栓データ等により、早期の処理を実施している。 ・水道営業所と協力して訪問徴収や追跡調査を行うなど、滞納整理に努めた。 ・特に平成14年度以前の滞納について、調査・催告・訪問等を行い滞納整理に努めた。
	未解決の課題・問題点	<p>(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下水道システム稼働時間の延長は、メンテナンス・神奈川県企業庁の集計等の関係で実施されていない。 ・滞納整理について一定の効果が上がったが、今後も継続して取り組む必要がある。
	今後の方針 (対応・改善)	<p>(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き各市町と連携して、神奈川県企業庁に稼働時間(時間外利用時間)の延長を求めめる。 ・使用料の納付を強く促す催告通知文書等の送付や、電話催告等により徴収を強化する。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	平成15年度から下水道使用料の徴収を神奈川県に委託し、県営水道料金との一括徴収によりコスト軽減及び徴収率の向上に取り組んできたが、使用料の公平負担の立場から滞納整理の拡充はもとより、今後とも下水道使用料の適正化をめざす。		
担当課長氏名:	下水道課課長代理 高宮 淳		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	人件費を含めた総事業費の縮減に取り組んできたが、今後もより一層の効率化を進め、コストダウンに努めるとともに、使用料収入確保のため滞納整理を行い徴収率の向上を図る。		
担当部名	都市整備部	部長名	高橋 洋